

拠出金名： 国際連合婦人開発基金 (UNIFEM)

分担金・義務的拠出金の有無		有(所管官庁)		無	
当該機関等に対する分担金を含めた平成19年度の拠出総額				77,865千円	
国際機関等名	国際連合婦人開発基金 (英文名称・略称) United Nations Fund for Women (UNIFEM)				
種 別	国連(事務局)	国連(基金・計画)	国連専門機関	その他	
所管官庁担当局課名					
最近3年間の我が国支払額及びODA率					
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千)	レ ー ト	ODA率(%)
平成19年度	77,865	671		1米ドル = 116円	100
平成18年度	78,430	707		1米ドル = 111円	100
平成17年度	85,250	797		1米ドル = 107円	100
当該拠出金の目的・用途等	女性の地位向上に関するプロジェクト、女性関連開発援助の実施				
拠出上位5ヶ国・地域・機関等 (2007年のもの)				国際機関等の財政 (2007年度決算)(千ドル)	
	国 名	金額 (千米ドル)	拠出率(注) (%)	当該年度の収入 63,290千米ドル	
1位	ノルウェー	8,766	19.3	当該年度の支出 57,032千米ドル	
2位	スペイン	8,035	18.4	次年度への繰越 6,258千米ドル	
3位	英国	6,085	13.9	会計検査機関名	
4位	スウェーデン	3,796	8.7	国連会計検査委員会 (UN Board of Auditors)	
5位	米国	3,216	7.4	UNDP監視・監査審査部 (UNDP Oversight and Audit Review Department)	
日本の拠出は第15位(1.53%)					
当該機関等に対する我が国としての評価 (当該機関等の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)					
ジェンダーの視点は国連の経済社会分野のみならず、紛争予防・解決・復興の分野等でも重要となっている。我が国は2005年3月に開催された第49回国連婦人の委員会においてジェンダーと開発(GAD)イニシアティブを立ち上げたが、2007年3月末にアジア女性基金を解散したこともあり、ジェンダー主流化の取組を強力に推進するためには、UNIFEMとの協力関係をさらに深めていく必要がある。					
合理化、機能強化のための改革が行われているか。 行われている場合はその現状と我が国としての評価					
機能強化を目指し、ドナーベースの拡大努力、職員のキャパシティビルディングを進めている。また、前回の多年度資金枠組(2000-2003)と比較して、ノンコア拠出をおよそ3倍に伸ばしていることも評価できる。					
邦人職員数 うち幹部以上	2人 うち 0人	当該機関全体の職員数 及び邦人職員が占める率		198人 1.0%	
邦人職員が占めている幹部ポスト					
ポストの名称		職 員 氏 名		備 考	
なし					
当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画					
今後も邦人職員採用に対する働きかけを継続していく。					

(注) 我が国と各国とは会計年度が異なるため、拠出率については暦年となっている。